（様式１）

平成２７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） １７３	**提案機関名**	さがみ農協

要望問題名

観賞植物遺伝子資源の導入と評価・普及に向けた技術開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

これまで観賞植物の遺伝資源導入・評価はフラワーセンター大船植物園で行われていたが、フラワーセンターの再編によりその機能が農業技術センターに移管されている。最近の景気回復傾向や６年後の東京オリンピックに向け、低迷する緑化需要の回復が見込まれる。神奈川県は首都圏の植木・花木・鉢物・花壇苗の主要産地であり、新たな需要に対応した商材の導入普及が望まれる。

そこで、これまでに導入したものや、育成途中の遺伝資源も含め、利用環境に応じた再評価と、早期の普及に向けた生産技術の開発を要望する。

解決希望年限	①１年以内	[②２～３年以内]	③４～５年以内	④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	[①農業技術センター]	②畜産技術センター	③水産技術センター	④自然環境保全センター

備　考

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	生産技術部果樹花き研究課

対応区分　[①実施]　[②実施中]　③継続検討　[④実施済]　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

遺伝解析手法を活用した新たなかながわ特産品の作出

(4)花き観賞樹の新品種育成　イ　観賞樹の新品種育成

地産地消を加速する品種の選定

(5)花き・観賞樹の品種特性検定　イ　観賞樹の品種特性検定

対応の内容等

これまでにフラワーセンター大船植物園において収集・保存を行ってきたアセビについて特性調査を行いました（対応区分④）。

今後、コトネアスター類等について、その特性調査を行い有望樹種・品種の選定を行います（対応区分①、解決予定年限②）。

新品種の育成については、現在、ハナモモ「照手シリーズ」の早生化を目標に交配及び選抜を行っています。また、枝垂れ性ヤポンの雄品種の育成及び耐暑性シャクナゲの育成について選抜系統の特性調査を行っています（対応区分②、解決予定年限③）。

さらにサルスベリ‘ディアルージュ’は、うどんこ病抵抗性に加え、そのコンパクトな樹形が矮小化した都市部の緑化スペースに適応するものと期待されるので、利用場面を想定しその特性を再評価していきます（対応区分①、解決予定年限③）。

解決予定年限	①１年以内	[②２～３年以内]	[③４～５年以内]	④５～１０年以内

備　考